

2026年10月号 Vol. 89 (2026 年 10 月 1 日発行)

せんしゅん



ISO9001:2015認証取得
日本医療機能評価(3rdG:Ver.2.0)認定病院

<https://www.senshunkai.or.jp/>

千春会

検索

発行責任者：菊地 孝三



稲荷大明神の銀杏(京都府大山崎町:山崎聖天・天王山登山口付近)

理 念 (3つの使命)

1. 患者・利用者の自立を支援し、良質な医療・看護・介護を提供する。
2. 仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。
3. 事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。

基本方針 (5つの志)

1. 優しい心を基本とする。
2. 医療と介護の相互充実を基本とする。
3. 疾病・障害を一体的に把握し、総合的な医療・介護サービスの提供を基本とする。
4. 良好な療養環境の維持並びに向上を目指す看護・介護を基本とする。
5. 互いの立場を理解し、尊重しあう職場づくりを基本とする。

医療法人社団 千春会

関節の痛みと向き合う —再生医療とロボット支援手術

千春会病院 整形外科 原田 豪人



私が千春会病院に初めてまいりましたのは2021年9月のことです。整形外科の非常勤医として外来を担当し、2023年4月からは常勤医として長岡京の地で外来と手術に携わっております。

私は2002年に弘前大学医学部を卒業し、京都大学医学部附属病院の整形外科に入局しました。整形外科全般を学んだのちスポーツ整形外科を専門とし肩・膝・足の関節鏡手術を中心に診療にあたっていました。ただ手術で治せる範囲には限りがあります。「手術をするほどではない。けれども痛みが続いている」という方に何ができるのか。その答えを探すなかでたどり着いたのが再生医療でした。当院に再生医療外来を開設させていただき、保存治療から手術治療・再生医療までを一つの外来でご提案できるようになりました。

診療を重ねるなかで感じるのは患者さんの「暮らし」との距離の近さです。診察室でうかがうのは膝や肩の痛みのお話ですが、その背景には必ず「畑仕事を続けたい」「孫の運動会に行きたい」というその方の生活があります。「医療と介護の融合」という当院の理念の意味を私は外来のなかで日々実感しています。痛みを取ることと暮らしを支えることがこの病院では地続きなのです。

私が大切にしたいのは専門性の高い治療を住み慣れた地域の通い慣れた病院で受けていただくことです。京都市内や大阪の専門施設まで通うこと自体がご高齢の方には治療をあきらめる理由になります。この地域で完結できる選択肢を増やしていくこと。それが、私がこの地でお役に立てることだと考えています。

治療は「階段」で考える

変形性関節症の治療はいきなり手術へ進むものではありません。まずは体重の管理と運動療法・リハビリテーションによる筋力づくりが土台となります。次に内服薬や外用薬、ヒアルロン酸の関節内注射といった保存療法。それでも痛みが残り、日常生活に支障が出るようになったときに手術が視野に入ります。

この「保存療法だけでは物足りない。けれどもまだ手術は考えたくない」という段階に新しい選択肢として加わったのが再生医療です。

ご自身の血液を活かす — PRP療法

PRP（多血小板血漿）療法は患者さんご自身の血液から遠心分離によって血小板を濃縮し、痛みのある

部位に注射する治療です。血小板には傷んだ組織の修復を助ける成長因子が多く含まれています。ご自分の血液を用いるため、アレルギーや拒絶反応の心配が少ないことが特徴です。

「膝の治療」という印象をお持ちの方が多くかもしれませんが。しかし当院では膝に限らず、肩・股関節・肘・足の関節や腱・靱帯の痛みに対しても行っています。五十肩がなかなか治らない。股関節が痛くて長く歩けない。そうした「手術にはまだ早い。けれども良くならない」と足踏みしていた症状に一手を打てるようになりました。

当院では血小板の濃度や量が異なる複数のPRPを用意し、部位や症状に応じて使い分けています。

ロボットが支える人工膝関節置換術

軟骨が広い範囲で失われ、保存療法や再生医療では痛みを取りきれない場合には人工膝関節置換術が有力な選択肢となります。当院では2025年2月より専用のロボット支援システム「VELYST™」を用いた手術を開始しました。

ロボットが手術を代わりに行うわけではありません。執刀医が立てた計画と手の動きをコンピュータがミリ単位で支え、骨を削る位置や角度、靱帯のバランスを手術中にリアルタイムで確認しながら進める仕組みです。人工膝関節の成績は新しい関節面をその方の脚の形と動きに合った位置に据えられるかどうかで大きく変わります。計画からのずれを小さく抑えられることが最大の利点です。

それぞれにふさわしい役割がある

ロボット支援手術が力を発揮するのは、膝という一つの関節です。一方のPRP療法は、膝はもちろん肩から股関節・足元まで、体のさまざまな部位の痛みに手を差し伸べることができます。守備範囲も適した段階も違います。だからこそこの二つを併せ持つ意味があると考えています。

大切なのは、年齢や活動量、お仕事や介護のご事情まで含めてその方がいちばん納得できる方法と一緒に選ぶことです。手術やリハビリのその先にある地域での暮らしまで見据えて、これからも治療にあたっています。関節の痛みでお困りの方は、どうぞお気軽に整形外科外来にご相談ください。

大規模災害に向けて万全の備えを 災害医療救護訓練 実施

毎年、千春会病院では大規模な災害を想定した「災害医療救護訓練」を実施しています。

今年も「熊本地震」はじめ、世界各国でも大規模な災害が発生しています。いつ発生するかわからない地震や台風。人的事故などが発生した際、地域の方々をいかに支援するか、いかなる状況でも対応できるよう医療機関は常に想定しておくことが重要です。

また、災害発生時は、多くの方が治療のため病院に集中しますが、病院もどのような損害を被るかは計り知れません。限られた医療資源を最大限に活かした医療が提供できるよう、迅速に適切な判断ができるように、様々な形で訓練を実施しています。

訓練開始



災害発生の際に放送が流れ、停電を想定した病院内は、実際の治療の妨げにならない範囲で一瞬にして明かりが消されました。

すぐに藤原院長を災害対策本部長とする、災害対策本部が立ち上げられ、医師をはじめとする病院職員が本部前に集合し、役割が割り振られました。常時備えてある「災害対策物品」が持ち込まれ、ヘルメットを着用し、医療機器や必要書類、多数の非常用電灯等が各所に設置されました。



まず初めに、入口付近には「トリアージゾーン」が設けられました。さらに重症度に応じた指定場所として「軽症：青ゾーン」「中等症：黄ゾーン」「重症：赤ゾーン」と各所ゾーンが設けられ、必要な医療材料、車いす、ストレッチャー、薬剤などが配備される中、受付に殺到する職員扮する患者さんたち。「トリアージ※」された患者さんが次々に各ゾーンに運び込まれてきます。「トリアージ」は病態を医師が最終判断するという非常に重要な決定がなされるため、聞き取りや症状確認の現場に緊張が走ります。また、軽度、中等度の症状とされた患者さんが急変するなど、緊迫感のある本番さながらの状況が続き、全員が真剣そのものでした。

想定していた医療材料が不足したり、重症者が増加するにつれ、ストレッチャーや車いす、ベッドが不足する事態も発生する過酷な中、それぞれが状況を考え、声を掛け合い、チームで対応することができました。

職員が患者役を担いましたが、多岐にわたる症状に対応する職員たちも新たな気づきを得ることができました。多くの職員が真剣に取り組んだ訓練。

振り返りでは物資の過不足、人的・物的配置、導線などで生じた課題を各部署で共有し、さらに万全を目指していきます。

近年の天変地異、自然災害はもとより、交通機関の要所、大規模工場などを有する乙訓地域での災害は多様です。

これからも、どのような状況にも迅速、適切に対応できるよう、しっかりと体制を整えてまいります。



トリアージ(※)について

病態が共通認識できるよう、識別できるトリアージ・タグを使います。

※トリアージとは
災害や事故などで同時発生した大量の負傷者に対して、限られた医療資源（医療スタッフ、医療機器、薬品等）で、一人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うために、診療前に患者の重症度に基づいて、治療の優先度を決定することをいいます。（参照「大辞林」）



良質な介護の提供を目指し

介護部門 本年度任用責任者に聞く

千春会の介護部門は乙訓地域（長岡京市、向日市、大山崎町）、京都市、大阪府に29事業所を有しています。事業所には各責任者が配属されており、毎年の新規事業所オープン、リニューアルにあたっては、新たな責任者が任用されています。

今回は今年度任用の新・責任者に「抱負や想い」をインタビューしてみました。

デイケアセンター あお空（介護老人保健施設春風 内）
副主任 **金丸 敬祐**（あお空責任者3年目）



最初は不安も大きかったですが、職員に支えられてきました。デイケアなのでイベントがなかったのですが、昨年から外出（軽食、衣料店、神社仏閣など）や楽しめる手作業として物づくり（小物・ランプ等）、疾患別の茶話会、個別リハ対応が出来る少人数の体操など、リハビリを楽しみながら、つながりを深められるコミュニティ活動をしています。さらにセラピストという専門職の知見を活かし、特徴あるデイケアで地域に貢献していきます。

介護複合施設 東向日
主任 **上仲 菜穂子**（東向日責任者2年目）



これまでに構築されてきた地域からの信頼や前責任者の体制の良さを引き継ぎつつ、職員が「良質な介護の提供」を目指します。自分たちで「やりたい、やってみたい事」、自分たちの想いを話してもらえようような関係性や連携がさらにしっかりしてきました。楽しい事やプライベートも大切に充実した仕事ができるよう、利用者さんへのサービス向上を第一にしながらも若い職員ははじめ全員が長く働き続けられる職場環境を目指しています。

デイサービスセンター 岡崎
主任 **武村 朋樹**（岡崎責任者2年目）



京都市左京区の事業所展開は法人初なので、千春会という法人の土壌がない場所での立ち上げは大変でしたが、入職16年目のチャレンジはやりたいサービスを提案できる、やりがいがありました。職員も自発的に意見を出し合いながら、利用者さんが楽しく通えるデイサービスを作り上げています。一般的なデイサービスと違い、リハビリ専門職であるセラピストが日常生活まで全てを身体的に評価し機能訓練に活かします。さらに歯科衛生士が口腔ケアまで関わる他所にない事業所の強みを活かして、重度の方も利用してもらえるように、また、深まってきた地域交流も大切にしていきます。

小規模多機能型居宅介護 あさつゆ
副主任 **濱川 歩**（あさつゆ責任者2年目）



現場職員の頃と違い、会議等が増えましたが一人で考えるのではなく、課題やアプローチを含め職員ミーティングに図りながら、現場と共に解決しています。これまで現場目線でしたが責任者としての見方へと変化しています。地域密着型の施設なので、お祭りなど地域との交流をさらに深めて、地域の方々と交流の中で支えられる施設にしたいと思います。

デイケアセンター 岸辺（特化型）
（せんしゅんかい たなのファミリークリニック 内）
主任 **並木 美沙**（岸辺責任者2年目）



訪問診療や小規模デイケアは展開していましたが、大規模デイケアの0からの立ち上げと千春会から離れた大阪府という地域でのアプローチをどうしてよいかわからず、知ってもらふ事、窓口を広げることが難しかったですが、知ってもらうための努力がやりがいでもありました。法人が充実させてくれた施設設備などの素晴らしい環境を活かして、できる限り受け入れの幅を増やし、重度の方でも利用していただける事も知ってもらい、居場所としても家族さんの休息にも活用してもらえるようサービスを配慮していきたいと思っています。

介護複合施設 今里
主任 **角出 大起**（今里責任者7か月目）



複合施設は規模が大きく、職員、利用者さんの人数も非常に多いため、人やモノの調整などが、責任者として大変でした。積極的に現場で会話したり介助に入ったりして、ようやく動きがつかめるようになりました。医師の訪問や千春会病院、老健との連携もあり、看取りも役割となっています。職員それぞれに頑張られ、グループホームやデイサービスではそれぞれのカラーが出て良い感じですから、バランスをとりながら目標に向かって頑張っていきます。



演題「小規模病院にて全床を地域包括医療病棟とした経緯とその運用について」を発表中の藤原院長

全国の病院が参加する「日本病院学会」に今年も6演題を発表いたしました。法人からは、藤原 仁史院長はじめ股関節再建センター長 藤田 裕医師、栄養科統括主任 谷中 景子、介護部課長 入谷 卓也、リハビリテーション科作業療法士 相山 裕、地域連携室 臨床心理士 水野 愛梨が専門的な研究成果や日頃の取り組みを発表。会場には多くの医療関係者が来場し、関係する専門分野の発表会場にて熱心に聴き入っておられました。

発表にあたっては、理事長、院長、副理事長はじめとする法人の関係者が発表を聞く機会を設け、入念な予演会が行われました。発表会場である京都国際会館は、国際会議が開催されるほどの大会場ですが、十分検討を重ねての内容にて、全員が臆することなく落ち着いた堂々の発表となりました。

法人では、他の学会発表にも積極的な参加を奨励しており、職員それぞれが自分の課題や問題意識を持ちながら、日々研鑽を積んでいます。

これからも実践と知識を積み重ね「良質な医療・看護・介護の提供」につなげてまいります。

暑い夏も元気いっぱい!

たくさんの体験が子どもたちを育みます

この夏も子どもたちは、様々な体験をしました。「アトリエ保育園」では、楽しい水遊び、「きらら保育園」では中学生さんとのふれあい。千春会グループの保育園では、日常の中に「人とのふれあい」や「水とのかかわり」など、いろいろな社会生活を盛り込んで、体験の引き出しを作っています。

水に触れる楽しい水遊び

アトリエ保育園 保育・高齢複合施設 西山天王山

暑い夏だからこそその体験、「水遊び」は子どもたちも大好きです。子どもたちの中には、水の苦手な子もいますので、アトリエでは楽しい水遊びで少しずつ「水」に親しんでもらっています。園のテラスでビニールプールを使って年齢クラスごとに遊びました。楽しく「水」に触れることで、水の大切さや怖さを知ってもらい、少しずつ慣れてもらえるようにと工夫しています。おっかなびっくりの園児さんは、先生と一緒に静かに遊び、水遊びが大好きな園児さんは、手作りの「水でっぼう」で大はしゃぎ。テラスには先生と園児さんの笑い声でいっぱいでした。



水遊びに大はしゃぎの子ども達

長岡第三中学校の学生が職業体験

きらら保育園 保育・高齢複合施設 友岡

きらら保育園では、かわいらしい中学生さんが職業体験をしました。この日は、多目的ホールにて、みんなで運動遊びを行いました。鬼を決めての鬼ごっこですが、マットのエリアに逃げていれば捕まらないのがルールです。歌を歌ってストップしたら、一斉にマットエリアに移動します。歓声を上げて走り回る園児さんたちは、中学生さんが大好きです。「お姉ちゃ〜ん」と取り合って手をつなぎ、とっても嬉しそう。中学生さんも「子どもが大好きで、本当に楽しいです。とても可愛いので、将来は子どもたちと関われる仕事に就きたいです。」と満面の笑顔で楽しい気持ちを語ってくれました。

この体験を将来の生き方にぜひ、プラスにしていただければと思います。



中学生さんと手をつないで大喜び

千春会のホームページが新しくなりました！

ホームページ リニューアルのお知らせ

この度、千春会のホームページを新しくいたしました。千春会グループのコンセプトをはじめ、いろいろな活動など皆さまにお伝えできるよう、より分かりやすく、正確な情報発信ができるようにホームページを大きくリニューアルいたしました。これまでとイメージが異なりますので慣れないこともあるかと存じますが、ぜひ、ご活用ください。なお、お気づきの点などがありましたら、お気軽にご意見などもお寄せください。

歳時記
1

ふれあい看護体験 受入れ

京都府看護協会より依頼を受け 高校生2名が体験

千春会病院では、京都府看護協会からのご依頼を受け、かわいらしい高校生2名が体験に来訪しました。看護師を将来検討中の2人は、看護部にて「病棟・外来・透析室・手術室・地域連携室」で業務を見学したり、実際に体験。各部の看護師が対応し、血圧測定、透析業務、傾聴、手術室操作、地域連携の流れや患者さんの食事体験なども行いました。二人からは「看護師にも様々な役割があること、これまで知らなかった業務を知ることができて、良い体験になりました」と感想を述べてくれました。この体験が未来の看護師さんへの一助となればと思います。



先輩看護師から説明を受ける高校生たち

歳時記
2

ドライバー講習会 開催

千春会では、病院の透析送迎、各事業所への配食、介護事業所の送迎と、多くの車両が早朝から夜まで運行しています。患者さん、利用者さん、地域の安心、安全につながるよう、無事故、無違反を第一に、ドライバー講習を実施して、注意喚起を促しています。

この日は向日町警察署員による安全運転講習を行っていただきました。また、別の機会には東京海上火災保険(株)の講習会も実施し、スライドや具体的な事故例の緊迫した動画を見ながら、事故の恐ろしさを実感してもらいました。講習だけではなく、どのような軽微な自損事故でも必ず車両管理部門が該当ドライバーと面談し、ドライブレコーダーと一緒に確認の上、指導を行っています。安全であることを鉄則に法人として真剣に取り組んでいます。



真剣に聴き入るドライバーの皆さん

編集後記

今号表紙は、「稲荷大明神」。観音寺(山崎聖天)、天王山登山口にあつて、この時期は金色に輝くしだれ銀杏がまばゆい光を放ちます。稲荷大明神のいわれは定かではありませんが、その奥には平安時代に宇多法皇が創建した観音寺が鎮座し、三井家、住友家、鴻池家等、京都・大阪の豪商からの参詣が絶え間ない由緒の寺院です。

その道すがらの「稲荷大明神」。毎年秋には金色の銀杏、色づく紅葉が朱

の鳥居と相まって、目を見張るような美しさです。

「…年々歳々、人同じからず」といいますが、千春会は「理念」を受け継ぎながら、金色の銀杏のように、職員一人一人が輝きを増し、新風と共に地域へ貢献してまいります。

秋の光を受け、地も空も黄金色に輝く光景に「千春会」を重ねつつ…(弘)

表紙写真:元・乙訓医師会会長 斉ノ内先生ご提供

患者さまの権利と義務

当院では、次に掲げる患者さまの権利を尊重します。

- 1 患者さまは誰でも、良質な医療と良質な看護を公平に受ける権利があります。
- 2 患者さまは、医療の内容について納得できるまで十分な説明を受ける権利があります(インフォームドコンセント)。
- 3 患者さまは、他の医療機関の医療者に意見を求める権利があります(セカンドオピニオン)。
- 4 患者さまは、医師から説明を受けた治療方法など自らの意思で自由に選択し決定する権利があります。
- 5 患者さまは、ご自分の診療録など診療情報の開示を求める権利があります。
- 6 患者さまは、個人の情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

また良質な医療と看護を公平に受けていただくために、患者さまに次の義務をお願いしております。

- 1 患者さまご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にご提供ください。
- 2 十分理解できるまで質問していただき、納得した上で治療をお受けください。
- 3 患者さまおよびご家族の方々は、他の患者さまの治療や職員による医療提供の支障にならないように協力する義務があります。



日本医療機能評価機構認定病院

千 春 会 病 院

〒617-0826 京都府長岡京市開田2丁目14-26
TEL. (075)954-2175 FAX. (075)955-4615